

■ HTML誕生の時代背景

インターネットが無かった時代

日本では1950年代から物流 / 商業取引 / ニュース配信 / 気象通報の連絡などでテレックス (Telex / Teletype exchange service) が幅広く利用されていました。当時の通信料は今日と比べるかなり高かった(秒速:6文字程度 / 3分で12000円)ので英単語は略語を多く使っていた。この時代には英語タイピング能力に加えて Telex 略語資格検定試験も登場していた。

ABT … about
ASAP … as soon as possible
B4 … before
BTW … by the way
FYR … for your reference
PLS … please
TKS … Thanks
U … you
YR … year



■ html タグに <abbr> abbreviation と
<acronym> acronym が用意されているのは
何故なのかを考えてみよう。

1964年あたりから徐々にワードプロセッサ (Word processor) が普及しはじめ、写植機と同様にデジタルで日本語文字を入力して印刷することが可能となりました。しかしその操作方法は複雑で、印刷業界で使用するには熟練された技能が必要でした。1977年から専用カートリッジを使って用紙にプリントできる(家庭用)オール・イン・ワン・ワープロが売り出され、日本語ワープロのコンセプトが確立されました。欧米諸国には存在しなかった漢字入力という非常に困難な課題があったにもかかわらず、文章の作成 / 校正 / 編集 / プリントなどの機能を備えたワープロの発明は日本の電子技術における歴史的業績を残しました。

NEC 文豪
シャープ 書院
東芝 JW-10(ルボ)
富士通 OASYS
沖電気 レターメイト
カシオ ダーウィン
キヤノン CanoWord
エプソン Word Bank note

■ 日本語ワープロの特徴

プログラミング言語が搭載されていたこと。

MS-DOS形式でプレーン・テキストを読み書きできたこと。

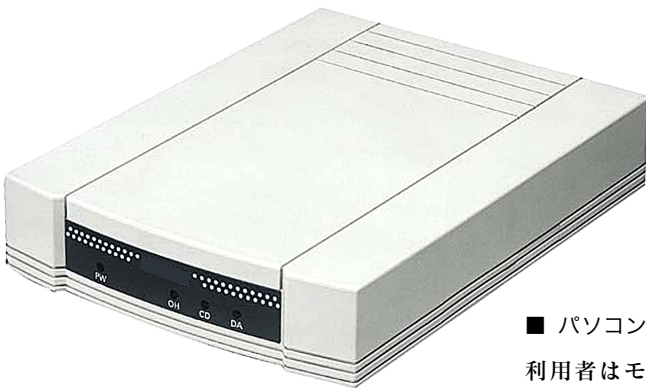
複数の書体(ゴシック体 / 丸ゴシック体 / 勘亭流 / 行書体
など)が搭載されていたこと。

ビット・マップ・フォントとして明朝体が使えたこと。

世界共通でやりとりできる文字コードはASCII形式ですが、日本語ワープロではMS-DOSテキスト形式を採用していました。しかしMS-DOSテキスト形式では文字色 / フォントの指定 / 装飾文字などの情報を取り扱うことができなかったため、後のパソコンではShift-JISという新しい日本語の形式が取り入れられることになりました。

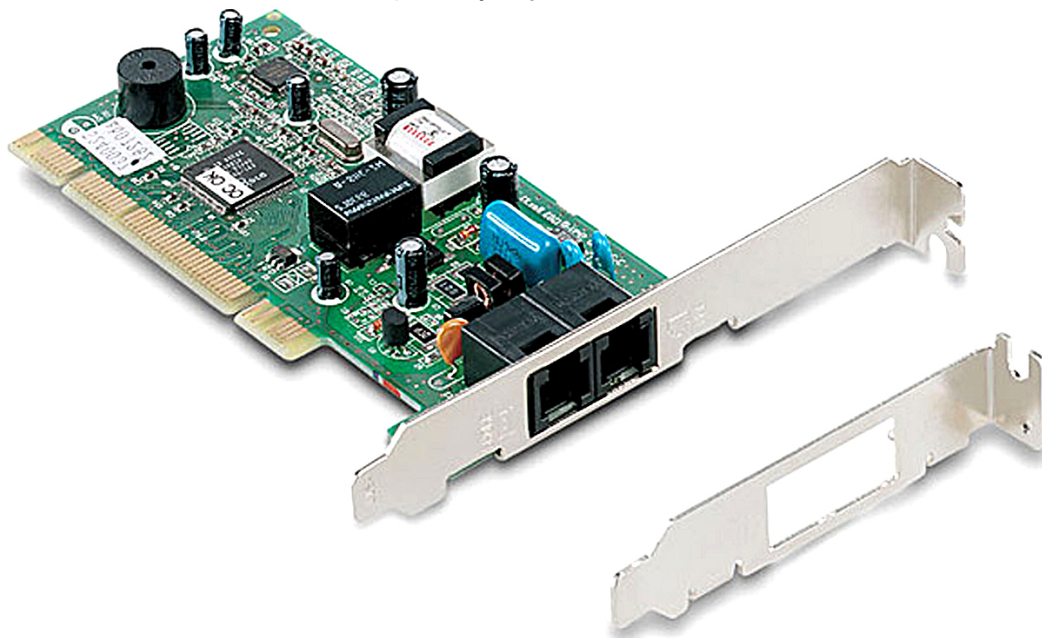
さらに1984年ごろからファクシミリ(Facsimile)が登場しました。Fax とも呼ばれていたこの家庭用電子機器は、文字 / 図形 / 写真などの静止画像を電気信号に変換して送受信できるもので、モデムとイメージ・スキャナ + プリンターが内蔵された便利な装置でした。電話回線を使って通信することができるので世界的にファクシミリの利用者が増えてきましたが、2000年代に入って文字や図像情報の転送でインターネットを利用する人が増え、ファクシミリの利用は徐々に減ってしまいました。

インターネットやHTMLを学ぶにあたり忘れてはいけないこととして、1980年代から広まった「パソコン通信」があげられます。パソコン通信の利用者たちは電話回線を利用して自分が加入しているホスト・サーバ (PC-VAN / NIFTY-Serve / 朝日ネット / CompuServe など) にダイヤル・アップ接続をし、メールの送受信 / 掲示板 / チャット などを利用していました。家庭用ゲームなどの様々なサービスと情報交換はパソコン通信のフォーラムとBBSからスタートしています。



■ パソコン通信の特徴

利用者はモデムの通信速度 / データ・フォーマット / データ長(8ビット) ATコマンド / プロトコル(TCP/IP)についてある程度学ぶ必要があった。jpeg / gif / png などの画像をバイナリ・データとして送受信していた。後のパソコンではモデムが内蔵されるようになり、PCと電話回線が直結されるようになった。



歴史的にインターネットの普及はまだ先だが、マイクロソフトを立ち上げたビル・ゲイツはパソコン通信を積極的に利用していた1人で、彼は誰よりも先に通信ソフトの開発と販売 / ネットワークを利用したあらゆるコンテンツをイメージしていました。

A	T	コマンド	パラメータ	コマンド	パラメータ	コマンド	...	CR	LF
---	---	------	-------	------	-------	------	-----	----	----

最大40（ATを含め42）文字

CR	LF	リザルトコード（単語）	CR	LF
----	----	-------------	----	----

リザルトコード（数字）	CR
-------------	----

コマンド (nは数値、 mmは文字列)	機能概略	パラメータ 初期値	パラメータの意味（参考）
A/	コマンド再実行		
ATA	強制着信		
ATBn	通信規格選択:ITU-T 規格、 BELL 規格の選択	* 0 1	300bps 時に ITU-T V.21 規格及び 1200bps 以上時に ITU-T V.22 規格選択 300bps時にBELL 103規格及び 1200bps 以上時に BELL 212A 規格選択
ATDmm	ダイヤル:モデムから電話回 線にダイヤル信号を送りま す	0 ~ 9 # * T P S=n W @ ! , ; L	電話番号 トーンダイヤル時のみ有効 トーン（プッシュ）式でダイヤル パルス式でダイヤル AT&Z コマンドでモデム内に記憶して いる電話番号にダイヤル ダイヤルトーンの検出 無音の検出 フッキング ポーズ（時間は S8 レジスタで設定） ダイヤル後コマンドモードに戻る 直前にダイヤルした番号に再ダイヤル
ATEn	コマンドエコー:モデムに入 力した文字列を端末にエ コーバックさせます。	0 * 1	なし あり
ATHn	回線制御:電話回線のオン、 オフを制御します	0 1	オンフック オフフック
ATIn	プロダクト ID 表示	0 1 2	プロダクトコード表示 ROM チェックサム表示 ROM チェックサム検証
ATLn	スピーカ音量	0,1 * 2 3	小 中 大